

平成 22 年 3 月 29 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回日本原子力学会「研究開発型医学物理」研究専門委員会
開催日時	平成22年 3 月 10 日(水) 13:30 ~ 16:30
開催場所	東大病院7F 大会議室
参加人数	14名 上坂主査, 柴田委員, 古林委員, 勝村委員, 石井委員, 伊藤委員, 石川委員, 大野委員, 庄司オブザーバー, 芳賀オブザーバー, 藤原, 堀池, 曾田, 小栗(説明者)
議 事	<p>1. 各大学での医学物理研究・教育状況</p> <p>北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学/東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学、兵庫県立大学より報告があった。各機関で保健科・工学部より合計 5 名程度の学生</p> <p>医学部保健学科放射線科と原子力系大学院と連携した教育コース（北大、東北大、東工大/医科歯科大、京大、阪大等）と、研究ベースの教育（東大、名大等）に分けられた。粒子線治療人材育成 5 年計画遂行中である（5 年で医師、技師、医学物理士、加速器技術者 20 名育成目標、3 年で十数名、医学物理士数名）。今後も教育スタッフ、学生を支援するべく、研究会活動を各大学で継続していくこと確認された。</p> <p>2. 「放射線治療と医学物理（仮題）」出版準備状況</p> <p>4 年間の委員会活動、付随して行われ続けた化学放射線治療科学学会のコンテンツをまとめて、養賢堂から出版予定である「放射線治療と医学物理（仮題）」につき、医学物理章の内容と書名について議論がなされた。医学物理においても治療と診断は異なる。我が国においては、特に医学物理の場合、治療がメインになりがちという傾向が強い。本章においてもほとんど治療について書かれている。本章では治療に関する事項のみについて解説する」等の一文を入れ、2-1 資格、2-2 教育、2-3 業務、2-4 欧米の状況、とすることとした。本書の場合、内容については、ほとんど技術（研究）の紹介にウエイトが置かれているようである。ゆえに、「放射線医療のための理工学」、「放射線医療の理工学」、「放射線治療の理工学」、「放射線医療の最前線」、「医学物理の理工学」の方が適切でないかとの意見が出された。近く著者全体で決めることとする。</p> <p>3. 「Comprehensive Medical Physics」Elsevier における加速器・放射線検出巻の編著</p> <p>Editor-in-Chief, Prof. Anders Brahme, Karolinska University Hospital and University of Stockholm および Elsevier より、IV Radiation Sources and Detectors の Co-editor の依頼を上坂が受けた。2 月 15, 16 日に第 1 回編集委員会が Oxford で開かれ、私は WEB システムで出席しました。2 年で出版の予定である。加速器部は、ICFA(International Committee for Future</p>

	<p>Accelerator), ICUIL(International Committee for Ultra-Intense Lasers)、日本原子力学会加速器・ビーム科学部会・放射線工学部会、大学原子力実験施設連絡会、日本加速器学会、医学物理学会のネットワーク中心に編著していくことに関する協力が確認された。</p> <p>4. 医学物理士の安全管理への貢献</p> <p>理工系出身人材は、放射線取扱主任者（国家資格）として、医療機関での放射線管理の拡充の観点で貢献できる。この貢献を、日本原子力学会でも議論していきたい。</p>
<p>備考</p>	<p>第1回委員会を3月10日メインとして開催いたしましたが、参加出来ない先生方のために予備の日程で3月5, 18日どちらか一方をご都合つけて頂きまして2時間程少人数で「研究開発型医学物理」研究専門委員会を行いました。なお、議事録はひとつにまとめさせていただきました。</p>